

項目	確認事項	届出内容
基本情報	大学等名1(代表大学等)	日本女子大学
	大学等名1(代表大学等)※カナ	ニホンジョシダイガク
	大学等名1(代表大学等)※学校コード	F113310103439
	大学等名1(代表大学等)学校本部所在地	東京都
	大学等名1(代表大学等)学校種別	私立大学
	科目名	建築総合演習
	学部・研究科等名	家政学部住居学科
	担当教職員名・役職	江尻憲泰：教授、宮晶子：准教授
	受講者数実績年度	令和3年度
	受講者数※インターンシップ参加者数	14
	受入企業等数	16
	受入企業等名	岩瀬諒子建築設計事務所、隈研吾建築都市設計事務所、SANAA、株式会社千葉学建築計画事務所、有限会社acaa建築研究所、一級建築事務所 アルテ・ワン、一級建築士事務所 有限会社 アーキテクチャー・ラボ、高池葉子建築設計事務所、カスヤアーキテクツオフィス、有限会社 江尻建築構造設計事務所、AXF株式会社、株式会社近代創美、空音舎一級建築士事務所、山縣洋建築設計事務所、武田清明建築事務所、株式会社中村高淑建築設計事務所
	インターンシップの分類	6.低学年（大学1年次～2年次程度）からのインターンシップ 8.大企業・グローバル企業でのインターンシップ 9.中小企業でのインターンシップ
上記以外のインターンシップの分類(記述欄)		
要素①	1-1.当該インターンシップは、就業体験を伴うものになっていますか。	1.はい
	1-2.該当する就業体験	1.企業等における業務への従事 2.企業等における課題の解決（例：ワークショップ、PBL型プログラム、課題解決ワーク、課題事例研究等）
	1-2.で「3.その他」の就業体験の内容	
	1-3.上記回答内容に関する詳細	社会人として建築設計およびその関連業務を行う基礎的な知識を習得し、また職業へのイメージを築くために、建築設計・管理業務、建築工事施工関連業務、都市関連調査業務などを行う会社・組織で、実務実習を行う。
要素②	2-1.当該インターンシップを正規の教育課程の中に位置付け、シラバス等において、インターンシップの実施目的や期待する教育的効果を明確にしているなど、体系的なプログラムとして単位認定が行われていますか。	1.はい
	2-2.該当するインターンシップの内容	3.当該インターンシップは、専門教育科目として実施している 6.当該インターンシップは、選択科目として実施している 8.当該インターンシップは、休業期間中に実施している
	2-2.「9.その他」で実施しているインターンシップの内容	
	2-3.当該インターンシップを実施する年次	大学 学部2年 大学 学部3年 大学 学部4年
	2-4.当該インターンシップで付与される単位数	大学 2単位
	2-5.上記回答内容に関する詳細	学部2～4年生を対象に、夏季・春季休暇期間中の100時間の実習を組み合わせた専門教育科目「建築総合演習」として実施。2単位を付与する。
	3-1.インターンシップの実施前の学生・企業双方との目標設定や目的のすり合わせや、実施後の振り返り等を行うなどの適切な学修の時間が設けられていますか。また、インターンシップの教育的効果が発揮されるようインターンシップ期間中に適切なモニタリングを実施していますか。	1.はい

要素③	3-2-1.該当する事前学習の内容	1.学生に対して、社会人としてのマナーや守秘義務の遵守、パソコンの使用方法を身に付ける授業等を行っている
		2.学生が受入企業の事業内容等に関する事前の調査・研究を行っている
		3.学生に対して、インターンシップにおける成果目標の確認や行動計画等の策定を行っている
		4.学生に対して、正規的教育課程としてのインターンシップの実施目的や期待する教育的効果の理解を促している
	3-2-1.「5.その他」で実施している事前学習の内容	
	3-2-2.該当する事後学習の内容	1.日報やレポート等を用いて、現場での体験の振り返りを行っている
		3.振り返りを実施し、成果目標等の達成について確認を行っている
	3-2-2.「4.その他」で実施している事後学習の内容	
3-2-3.該当するモニタリング	3.その他	
3-2-3.「3.その他」で実施しているモニタリングの内容	状況に応じて学生・受入れ企業と連絡を取り合っている。	
3-3-1.事前学習の内容に関する詳細	全2回の事前学習を実施。第1回では、前回の参加者の発表を聞き、インターンシップの意義・目的について理解を深める。第2回目では、働くことの意味や、参加にあたっての心構えに関する講義を受講し、事前に学生が提出をした計画書にフィードバックを行う。	
3-3-2.事後学習の内容に関する詳細	就業体験で学んだことや経験したことについて報告会にて発表を行う。また、報告書も合わせて提出をさせる。	
3-3-3.モニタリングの内容に関する詳細	状況に応じて学生・受入れ企業と連絡を取り合っている。	
要素④	4-1.インターンシップの教育的効果を定量的・定性的に把握できる手法・仕組みを取り入れていますか。	1.はい
	4-2.該当する教育的効果を測定する仕組み	1.アンケートやレポートの作成をインターンシップの実施前後で実施し、学生の意識や行動の変容について確認を行っている 3.インターンシップによる到達度を具体的に示した評価基準（例：ルーブリック）を整備し、学生及び教員で共有している
	4-2.「4.その他」で実施している教育的効果を測定する仕組み	
	4-3.上記回答内容に関する詳細	事前に計画書、事後に報告書を提出させ、それぞれフィードバックを行っている。また、授業科目として到達目標を明確に定め、成績評価に反映させている。
要素⑤	5-1.一定期間のまとまりのある連続した5日間以上のインターンシップの実施期間を確保していますか。	1.はい
	5-2.該当する実施期間	1.連続した5日間以上の実施期間を確保している
	5-2.で「1.連続した5日間以上」を選択した場合	100時間以上の実習を課している
	5-2.で「2.事前・事後学習を合わせて5日間以上」を選択した場合	
	5-2.で「3.複数の企業等を合わせて5日間以上」を選択した場合	
	5-2.「4.その他」の実施期間の内容	
	5-3.上記回答内容に関する詳細	事前学習全2回+実習100時間以上+事後学習（報告会）1回
要素⑥	6-1.大学等と企業の双方が関与し合い、学生に対する教育的効果の最大化に努めているなど、大学等と企業が協働してプログラムを設計していますか。	1.はい
	6-2.該当する大学等と企業の協働取組の内容	3.企業担当者が学生に対して適切に関与し、目標達成に導くなど、大学として必要な支援を行っている 4.受入企業等も、インターンシップ中の学生に対する評価を実施している

	6-2.「7.その他」で実施している大学等と企業の協働取組の内容	
	6-3.上記回答内容に関する詳細	事前にインターンシップの意義や目的を受入企業に御理解いただいた上で実習内容を設定いただいている。
	7.上記①～⑥で回答した各要素の内容について、詳細が記載されているシラバスなどの資料が閲覧できる大学等のウェブサイトのURL	https://www6.jwu.ac.jp/uprx/up/pk/pky001/Pky00101.xhtml
問い合わせ先	大学等名	日本女子大学
	担当部署名	キャリア支援課
	担当者役職名	
	担当者氏名	柿澤実紀
	電話番号	03-5981-3344
	メールアドレス	intern@atlas.jwu.ac.jp